

研修ニュース

〒518-0814 三重県伊賀市上友生 785 番地

TEL&FAX : 0595 (21) 8839

E-Mail : iga-ken@iga.ed.jp

研修講座 図書館教育

「子どもにとっての読書&学校図書館～楽しむ・読む・調べる～」

【講師】 亀山市教育委員会 学校図書館活用アドバイザー 川口 恭子先生

8月4日（金）、講師に亀山市教育委員会 学校図書館活用アドバイザーの川口恭子先生をお迎えして、研修講座「図書館教育」を実施しました。

初めに、「教育活動の軸を学校図書館とする。」という話がありました。なぜ、図書室ではなく図書館とあえて呼ぶのか、「それは読書をするだけではなく、情報や資料を利用し、学習したり、情報リテラシーや読書力を養ったりするなどいろいろな能力を育てる中核となる場所であるから。」という理由を聞き、図書館としての機能を考えることができました。



次に、図書館担当の役割や読書の意義について話をいただきました。その話の中で「読書の一番の意義は、子どもたちが好きな本の世界を楽しむことである。」という話がありました。私たちは「読むことが楽しい。」と感ずることができるよう、意図的な取り組みを行っていく必要があることを改めて確認することができました。その後、川口先生から具体的な取り組みを紹介いただきました。その中から一部紹介させていただきます。

（具体的取り組み）

①読書チャレンジ

- ・低・中・高学年別におすすめの本を30冊ずつ提示して2年間で何冊読めるか取り組む。

②POPをかこう

- ・自分の読んだ本の紹介を書く。（要約する・表現する・伝えるの3つの力を育てることができる。）

③集団読書

- ・みんなで同じ本を読んで内容や感想を話し合う。

④味見読書

- ・絵本から読み物への移行としてステップアップとなる読み物を3分ずつ試し読みする。

これらの他にも「調べる」学習として、百科事典の使い方や学習年鑑を使った調べ学習についてご紹介いただきました。特に学習年鑑は、都道府県調べや世界の国調べ、歴史人物調べだけでなく、日本の野菜や果物、気候、歴代の首相など幅広く載っており、子どもが楽しみながら調べることができると思いました。研修で学んだことを各校・園で還元いただき、2学期からの実践につなげていただければと思います。

アンケートより【一部抜粋】

・「図書を置いておくだけでは子どもは見ない」という言葉が印象的でした。図書を紹介したり、授業の中で活用したりすることで「見たい！」という意欲が生まれることが分かり、POP作成や味見読書など図書に親しむ機会を持ちたいと思いました。(小)

・ジュニア学習年鑑を早速使ってみたいと思いました。恥ずかしながら、今まで見たことも使ったこともなかったのでとても勉強になりました。今日学んだことを2学期に実践していきたいと思いました。(中)